

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



November

S	M	T	W	T	F	S
						1
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

November 2024 vol.127

◆大村神社

所在地：三重県伊賀市阿保

交通：近鉄大阪線「青山町」駅南東約1km

要石は地震を鎮める霊石とされ、地震を起こす地中のなまずを押さえているとも言われます。2022年公開の映画「すずめの戸締り」でも、地震を起こすみみず（映画ではなまずではなくみみず）を押さえる石として描かれていました。

要石で有名なのは茨城県鹿嶋市の鹿島神宮と千葉県香取市の香取神宮です。鹿島神宮の御祭神・武甕槌大神と香取神宮の御祭神・経津主大神は、神代の昔、天照大御神の命を受けて出雲の国に降り、国譲りの交渉を成就し、日本の建国に挺身されました。両社とも由緒ある神社で、伊勢神宮とともに、古来から神宮を名乗る3社とされています。

鹿島神宮の要石は、丸くくぼんだ形をしており、地下に眠るなまずの頭を、香取神宮の要石は、くぼみのない丸い形をしており、なまずのしっぽを、それぞれ押さえているとされています。両宮を崇敬していた水戸光圀が、要石の周りを掘らせたところ、7日7晩掘り続けたものの、石の底に到達しなかったというエピソードも残されています。

今年元日に能登半島地震が発生した、能登地方・羽咋市の大穴持像石神社にも、地震押さえの霊石として祀られている要石があり、地震後、多くの方が参拝に訪れています。

三重県伊賀市阿保の大村神社にも地震を鎮める要石があります。大村神社は、延喜式(927年)の神名帳にも記される由緒ある神社で、三代実録(901年)にもその名がある、この地方きっての古社です。古事記(712年)や日本書紀(720年)にも登場する神社の主神・大村の神は、この地域

を開発・開拓された土地の守り神として、また土地の鎮め・地震除災の守り神として信仰を集めてきました。神社の場所は、大村の神の宮室が築かれていた場所とされています。

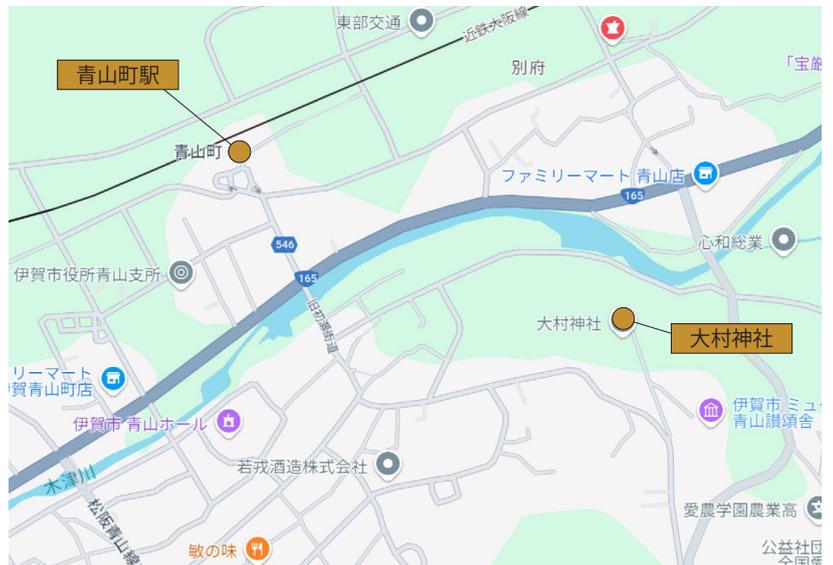
大村神社の要石は、神護景雲元(767)年、武甕槌大神と経津主大神が常陸・下総から三笠山(春日大社)に遷幸する道中、大村神社に宿泊した際に奉納されたものとされ、鹿島神宮、香取神宮の要石と同様、地下に眠る大なまずを押さえつけていると言われてます。大村神社の要石はくぼみのない丸い形をしており、鹿島神宮や香取神宮の要石より地上に露出している部分は大きめで、境内の要石社に祀られています。神社には、この要石の伝説にちなんで、秋祭り(裏面参照)の際などに曳き出される大なまず山車があるほか、かわいらしい張子の願掛けなまずが地震除災に用意されています。また、毎年9月1日の防災の日には、地震除災祈願大祭が執り行われています。

安政2(1855)年の安政江戸地震のあとには、要石となまずを描いた鯰絵も流行しました。鯰絵についてはまた別の機会に取り上げます。

6月には静岡の地震の神様・細江神社を紹介しました。細江神社や大村神社、鹿島神宮や香取神宮のように、地震を鎮める由縁をもつ神社が各地にあります。こうした神社を巡って、地震厄除けを祈願してみるのもよいですね。



(上) 要石社
大村神社 HP より
(下) 願掛けなまず
観光三重 HP より



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●津島神社 (vol.48,2018.4)

所在地：津島市新明町

交通：名鉄尾西線「津島」駅西約 1.1km

津島神社は、欽明天皇元(540)年を起源とする1400年以上の歴史がある神社で、明治時代の神仏分離までは「津島牛頭天王社」と呼ばれ、いまでも全国の天王信仰の総本社となっています。民衆だけでなく戦国の武将や大名からも崇拝され、楼門は豊臣秀吉、南門は豊臣秀頼の寄進、本殿は徳川家康の四男・松平忠吉の寄進とされています。

津島神社について残されている地震の被害の記録は2件あります。1件は、嘉永7(1854)年6月の安政伊賀上野地震によるもので、津島町史(昭和48年)によれば、神社の石燈籠が一基倒れ、死者もあったことが記されています。この安政伊賀上野地震は、津島祭(牛頭王天神事)の時期に発生しており、「諸方より群衆せる者の旅館にあったの

が、地震の為旅人大に驚き、逃げ出したる儘再旅館に帰らなかった」ことも併せて記されています。

もう1件は、明治24(1891)年の濃尾地震によるものです。濃尾地震では、津島神社は社務所・宝庫が倒壊、廻廊は傾き、摂社・末社13社が損傷しています。(本殿・楼門など、本殿には被害がなかったとされています。)地震の1年後には、犠牲者の慰霊と復旧・復興の記念、救済への感謝の意を含め濃尾大地震記念碑が建立されました。

津島神社の弥五郎殿社の左手に、台座と胴がずれた大きな石灯籠があります。これは、濃尾地震によってずれたもので、そのままの姿で残されています。津島詣の折には、石灯籠や濃尾大地震記念碑をご覧ください、津島の地震の歴史にも思いを巡らせてみましょう。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.48 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★大村神社例祭

大村神社の秋祭りは、毎年11月2日、3日に開催される大村神社の秋の例祭で、大なまず山車が巡行する、地震の神様のお祭りです。



2日の宵宮祭では、境内・参道の200程の常夜灯にろうそくが灯され、各地区から奉納される伝統神事の獅子舞神楽が奉納されます。境内には笛や太鼓のお囃子が響き渡り、祭りは夜遅くまで賑わいます。



大村神社 HP より

3日の本祭りでは、御神前で祭礼に続き、お昼頃から、境内で沸き立つ湯釜に笹を入れ参拝者に振り掛ける湯神楽神事、秋祭りの見どころのひとつである大なまず山車の祓式が行われ、奉祝の餅撒きが行われたあと、大なまず山車が町へ巡行します。

～鉄道で巡る～

近鉄青山町駅は、近鉄名古屋線と山田線が接続する松阪市の伊勢中川駅から、伊賀鉄道株式会社HPより
大阪市の大阪上本町駅を結ぶ近鉄大阪線の駅で、大阪方面からは青山町駅折り返しの列車が多数設定されています。



伊賀鉄道株式会社HPより

ひとつ大阪寄りの伊賀神戸駅からは、銀河鉄道999の松本零士氏がデザインした忍者列車が有名な伊賀鉄道伊賀線が、伊賀上野駅まで運行しています。

●ブレイクタイム●

♪青山高原

室生赤目青山国定公園の一角となる青山高原は、夏は平地よりも4℃ほど低く、関西の軽井沢とも言われる避暑地です。笠取山山頂からの眺めは抜群で、西は伊賀盆地、東は伊勢湾を経て、知多半島まで見渡せます。高原に至る青山高原公園線は、約10kmのワインディングが続く絶好のドライブスポットで、標高756mの三角点展望台からの伊勢湾の眺めも絶景です。山頂付近には、津市、伊賀市にまたがって80基を超える風車が稼働しており、壮大な景色が楽しめます。



観光三重 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減済の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年11月)